

健全化判断比率などの公表について

「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」に基づき、地方公共団体は健全化判断比率(実質赤字比率・連結実質赤字比率・実質公債費比率・将来負担比率)と、公営企業の資金不足比率を算定して公表します。

糸満市の
財政状況に
関する指標を
公開します。

健全化判断比率			単位: %
指標	糸満市	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	—	12.88	20.00
連結実質赤字比率	—	17.88	30.00
実質公債費比率	8.2	25.0	35.00
将来負担比率	26.5	350.0	／

- 赤字額がないため、実質赤字比率と連結実質赤字比率は「—」と表示しています。
- 実質収支は、8.2億円(6.0%)の黒字、連結実質収支は、29.6億円(21.6%)の黒字です。

公営企業の資金不足率			単位: %
会計の名称	糸満市	経営健全化基準	
水道事業会計	—		
下水道事業会計	—		
農業集落排水事業特別会計	—	20.00	
糸満漁港ふれあい公園事業特別会計	—		
土地区画整理事業特別会計	—		

- 資金不足がない場合、資金不足率は「—」と表示しています。
- 糸満市の公営企業は、資金不足(赤字)の会計はなく健全な状態です。

糸満市の健全化判断比率などは、いずれも基準をクリアしており健全な状態ではありますが、沖縄県内の「市」の中では、決して良い方ではありません。例えば、実質公債費率は8.2%と、県内11市の中で9位に位置しており、高い水準にあります。

糸満市の財政状況は依然として厳しい状況が続いており、さらなる財政健全化に向けて取り組む必要があると考えています。



財政指標に関する説明

各比率には、財政の早期健全化や財政再生を図るべき基準が設けられ、これらの基準を超えた場合、各地方公共団体は財政健全化計画などを策定し、財政の改善を図ることとされています。

実質赤字比率

一般会計などの実質的な赤字の程度を比率化したもの

▶糸満市においては、12.88%以上(財政規模による)で財政健全化団体に、20%以上で財政再生団体となります。

連結実質赤字比率

一般会計および全特別会計の収支を合算した、会計全体の実質的な赤字の程度を比率化したもの

▶糸満市においては、17.88%以上(財政規模による)で財政健全化団体に、30%以上で財政再生団体になります。

実質公債費比率

一般会計が負担する公債費および公債費に準じた経費の程度を比率化したもの

▶この比率が18%を超えた場合、地方債を発行するためには県知事の許可が必要になります。25%以上になると財政健全化団体になり一部の地方債の発行が制限され、35%になると財政再生団体となり多くの地方債の発行が制限されます。

将来負担比率

一般会計が将来負担すべき実質的な負債(市債残高のほか退職手当支給予定額、南部広域行政組合などの地方債残高)の程度を比率化したもの

▶市町村においては、350%以上で財政健全化団体となります。



照屋 キクさん カジマヤー盛大に祝う

旧暦の9月7日にあたる10月2日、糸満市字宇江城の照屋キクさん宅で97歳をお祝いするカジマヤーが行われ、子や孫、ひ孫ら親族約30人に囲まれながら盛大に長寿をお祝いしました。カジマヤーのお祝いにあたり照屋さんは「皆さんのおかげで健康に過ごしています。うれしいです」と感謝の言葉を話しました。



地域おこし協力隊
「糸満海人工房・資料館」
このコラムの中に我がまちの独特な文化の保存と継承の大切さについて頻りに書かせていただいています。最近「糸満海人工房・資料館」の話を数回しました。自分が好きな場所である以上、糸満の昔からの暮らしや知恵を次世代に伝承するのに貴重な施設であります。ここで紹介するのが遅いくらいと感じます。
資料館自体は道の駅の近くにある「糸満海のふろさと公園」の南側にあります。買い物だけでなく気軽に行ける場所です。
建物の中に入ったら、糸満で暮らしている人なら何となく見たことあるような、でも、正体や用途が明確にわからない展示品が次々と目に入ります。三角の帽子(クバ笠)、特殊な釣りのルアー、キラキラのガラスの浮き球、木船、不思議な旗、謎のちり取り、剥製のエビ、貝殻で作られた用途不明の道具など、展示品個々のストーリーや展示されている意味を知りたくなります。ここで見られない物もたくさんあつて、いつもチムチムと不思議な感じがします。
糸満海人工房・資料館ができた経緯をここで詳しく説明することは難しいですが、運営するNPO法人ハマスキーの初代理事長である上原謙さんが長年かけて個人で収集した、作ったり、作られた漁具や海人の生活用品を自分の家で展示していましたが、市役所の協力もあって、平成21年に今の建物に移転したのが始まりです。
上原さんは昨年亡くなりましたが、個人的に1度だけでも会いたかった凄いイチマンチムチだそう。次世代に継承した遺産は本当に糸満の宝物だと思います。
本部町の海洋文化館、那覇市の県立博物館など、観光地である沖縄は地域の文化や暮らしをテーマに研究や資料を展示する立派な施設に恵まれています。
海人工房も糸満の海人実体験の記録から、研究、情報発信など、面白いことをたくさん行っていますが、それ以上のコンセプトで、体験を通して、楽しく教育できる場所でもあります。海人必需品のミカガン(木製水中眼鏡)を作ることから、サバを乗る体験まで、文化に絡めた体験を幅広く提供しています。五感で感じたものは一生忘れません。
次世代に伝統文化を継承するのにこの精神が素晴らしいと思ひ、ルドは絶対行き続ける場所です。



ミカガン装着中 /
ルド



沖縄県糸満市 Itooman City

■人口

	9月	前月比
人口	62,590	-28
男	31,726	-22
女	30,864	-6
世帯数	28,038	14

■火災・救急

	9月	前年比
火災	0件 (8件)	0 (-10件)
救急	275件 (2840件)	21 (669件)

※()内は令和4年の累計

- 面積 46.60Km² (2021年10月1日現在)
 - 市の花木 ブーゲンビレア ■市の木 ガジュマル
 - 市の花 日草 ■市の魚 タマン
- (人口、世帯数、火災・救急件数は2022年9月末現在)

広報 いとまん

「声の広報」届けます

目の不自由な人に糸満市の情報を届けるため、広報いとまんをCDに吹き込み配布しています。「声の広報」を希望する人は、秘書防災課(☎840-8118)まで問い合わせてください。

ラジオ広報・市役所便り (FMたまん)

- 月～金
- ① 7時45分～7時50分
- ② 12時55分～13時
- ③ 17時55分～18時
- 土～日
- ④ 12時55分～13時